



東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査

孫 安石（非文字資料研究センター 研究員／研究班代表）

東アジア開港場（租界・居留地）を巡った日本人の諸活動については、いままで上海を中心とした日本人居住地域を選定し、研究活動を展開してきたが、2023年度以降は、上海の他に青島と広州を加え、華北、華中、華南の都市発展と租界の建築を比較検討する視点を確保したい。とくに青島では中国海洋大学、広州では広州外語外貿大学の協力を得て、調査を実施したい。いままでの共同研究で発掘できた日本外務省外交史料館、上海市檔案館、台湾中央研究院の資料、各種の新聞（North China Herald、申報）、雑誌（Far Eastern Review、『支那事変画報』、『写真週



【川合安平上海写真コレクション】

報』、絵葉書（非文字資料研究センター所蔵の近藤恒弘コレクション）、写真集なども引き続き活用する。そのほか、2022年に寄贈いただいた川合安平氏旧蔵の上海写真資料の活用と叢書刊行『中国文化大革命ポスターを読む』（仮）（2024年3月予定）の企画も継続して進める。



租界班活動紹介パネル展示の様子